

登録日 2020/5/26

レジメン名 H&N014

腫瘍名 頭頸部がん(唾液腺がん)

申請医師 耳鼻咽喉科

### 投与スケジュール

DTX+Tmab		21日毎 PDまで (7コース目からハーセプチンのみ投与可)	
		1コース	2コース
		1 8 15	22 ... (day)
①	生理食塩水 (プライミング用) 50 mL 点滴 5分	↓	↓
②	ハーセプチン 6 mg/kg 点滴 30分 蒸留水 20~40 mL 生理食塩水 250 mL 初回投与量: 8mg/kg、2回目以降投与量: 6mg/kg 初回90分投与、2回目以降30分に短縮可能	↓	↓
③	生理食塩水 50 mL 点滴 5分 (ハーセプチン用フラッシュ)	↓	↓
④	デキサート 6.6 mg 点滴 15分 生理食塩水 50 mL	↓	↓
⑤	ドセタキセル 70 mg/m <sup>2</sup> 点滴 60分 5%ブドウ糖液 250 mL	↓	↓
⑥	生理食塩水 50 mL 点滴 5分 (ドセタキセル用フラッシュ)	↓	↓

### 注意事項

- ・ハーセプチン投与は、病理結果にてHER2蛋白陽性者に限る。
- ・75歳以上の事例に投与する場合、初回ドセタキセル量は55mg/m<sup>2</sup>とする。  
(引用文献の情報を参考としている)
- ・初回投与の認容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。
- ・ハーセプチン初回投与時には、カロナールまたはNSAIDsなどの前投薬を検討する。
- ・ハーセプチンは、投与予定日より1週間を超えた後に投与する際に改めて初回量で投与する。
- ・ハーセプチン投与の際には、心エコーによる心機能を確認する。  
モニタリングの頻度は、通常の患者では12週毎、無症候性心機能障害者では6~8週毎に行う。
- ・減量基準(臨床試験からの参考値)  
FN発症時、Grade4の血小板減少、Grade3以上の非血液毒性(悪心嘔吐除く)、  
Grade2以上の末梢神経障害、8日以上ドセタキセル投与を遅延する場合に減量する。  
ドセタキセル用量: 70mg/m<sup>2</sup> → 55mg/m<sup>2</sup> (減量する最小値は45mg/m<sup>2</sup>まで)

### 参考文献

1) J Clin Oncol, 37, 125-134 (2018).  
2) 添付文書 (ハーセプチン2021年11月改訂版、ドセタキセル2021年11月版)